

日本語話者との初対面会話で 相互理解を目指す学習者の質問 —遠隔授業で学んだことを活かす ビジターセッションについて—

杜 長 俊, 安 祥 希

要旨

学習院大学国際センターでは、所定の日本語能力の基準（日本語能力試験 N4 レベル相当）をクリアできなかった交換留学を希望する協定校の学生を対象に、来日までの半年間で日本語の基礎能力を身につける遠隔日本語教育プログラムを実施してきた。このプログラムは、E-learning のウェブサイトを使った自習、教師と学習者による 1 対 1 のオンラインレッスン、そして、オンラインレッスンで学んだことを実践するビジターセッションで構成されている。ビジターセッションでは、学習者が初対面の日本語話者と 1 対 1 の会話を行う。本論文では、2021 年度に実施したビジターセッションの会話から、学習者が相互理解を目指す質問を取り上げ、記述することにした。①掘り下げる質問 ②互恵的な質問 ③直前のやりとりで気づいたことを示す質問を分析するとともに、相互理解を目指すことへの意識を促進するためにビジターセッションの前後でできることを検討する。

1. はじめに

近年の日本語教育では、日本語の習得を促すために、教師によるインプットだけではなく、学習者が日常生活で実際に経験する場面や状況を想定した様々な活動や工夫が行われている。例えば、教師以外の日本語話者を「ビジター」として招き、学習活動の一環として学習者とインターアクションを持つ活動などがそれにあたる。このようなビジターセッションは、「教室の場面を実際のコミュニケーションの場面に近づける」のに有効であると指摘されている（ネウストプニー 1982）。そして、インターアクション能力を育てる会話教育の活動としては、インタビュー、ディスカッション、日常の会話等、様々な形でのビジターセッションの実践報告が行われている（田崎・古川 2000, 村岡 2001, 中井 2003a）。

これらの実践報告から分かるように、ビジターセッションを取り入れる目的には、コミュ

ニケーション能力を試す場、知識や情報を自ら獲得する場、人間関係を築く場など、様々なものがある。本稿では、ビジターセッションにおいて初対面の相手と関係性を構築するために学習者が試みる工夫や努力を探るとともに、相互理解を深める場としてゲストセッションを取り入れた成果及び課題を明らかにする。

また、母語話者と非母語話者が会話する場面における相互理解というのは、発話が持つ意味の解釈・理解（大平 2000）から、文化や価値観をめぐる異文化理解（梶原 2003）まで、様々なレベルがある。本稿が取り扱う相互理解は、相手とはどんな人なのかを知り、自分とはどんな人なのかを相手に伝え、よい人間関係の構築を目指すこととする。本稿では、相手側の情報を引き出す学習者の質問を分析対象とし、相手とのやりとりを通して、相手と相互理解を深めながら相手との人間関係を築く際の困難及び、その困難を乗り越える工夫や努力について記述する。

II. 先行研究

中井（2003b）は、母語話者と非母語話者による会話展開の話題開始部について、母語話者同士の会話と比較を行っている。それによると、母語話者同士の会話では、会話参加者が自身の情報を提供し合って、話題を展開するという「情報提供話題開始型」と、お互いに質問することで話題が展開する「質問——応答型（相互型）」が見られたのに対し、母語話者と非母語話者の会話では、母語話者からの質問に非母語話者が答えるという一方向の質問——応答のパターンが多く観察されたという。そのような現象について、中井（2003b）は、母語話者は非母語話者が会話に積極的に参加できるように配慮し、非母語話者がその配慮を受け入れて会話に参加していたのではないかと考察したうえで、学習者が相手の情報を引き出し、共通点を見つけていくことにより、新しい人間関係を構築していく能力の養成に力を入れるべきだと主張している。

さらに、中井（2003b）は、話題開始部で用いられる質問を補充質問（Wh-question）、確認質問（Yes-no question）、念押し（tag-question）などに分類して、その頻度の調査を行い、非母語話者と会話した母語話者の質問に、確認質問が多く見られたことから、非母語話者が簡単に答えられる質問を用いて、会話へ参加しやすくするように配慮したからなのではないかと述べている。また、非母語話者が用いた質問形式や表現については、母語話者同士の会話と違う表現が使われたことで、母語話者が違和感を持ったケースがあったことを報告している。しかし、中井（2003b）には、非母語話者の質問は会話展開や相互理解においてどのような機能をしているのかについての直接的な分析や記述は見られない。本稿では、学習者が相手の情報を引き出すために質問を行う際に、どのような困難に直面しているのか、そして

どのような方法でその困難を乗り越えているのかという点について、実際のやりとりから明らかにする。

中井・大場・土井（2004）は、唐突に話題を転換したり、相手の話題に関心を示せなかったりする学習者のコミュニケーション上の問題を防ぎ、学習者自らが望む形で積極的に会話に参加できるようになるための「談話レベルでの会話教育のための談話技能の指導項目案」を提案している。この指導項目は、「言語的項目」、「非言語項目」、「音声的项目」、「言語・非言語・音声の総合的技能項目」に分類されており、「言語的項目」の中に「良い人間関係・社会関係を作るための質問」がある。例えば、「ご出身はどちらですか」「趣味は？」といった相手に興味があることを示す質問や、「アメリカの音楽は好きですか？」というような相手の意見・感想について聞く質問である。本稿では、ビジターセッションで学習者が相手の情報を引き出すために用いた質問を分析し、人間関係構築を目指した実践学習を支援する体制について考察することとする。

III. 分析対象

3.1 分析対象の教室について

本稿の分析対象は、学習院大学国際センターが行う「日本語準備コース（Japanese Language Preparatory Course）」という日本語教育プログラムである。学習院大学では、協定校の学生が交換留学を申し込む基準に、日本語能力の条件を設けているため、日本語学習歴がないという理由で留学を断念する学生が一定数いた。このようなことを背景とし、2020年度から日本語学習を支援する遠隔のプログラムが立ち上げられた。それが上記の日本語教育プログラムである。本稿では、2021年度に実施したプログラムを分析の対象とする。当該年度に実施したプログラムの概要は以下の通りである。

- 目標：日本の生活の中で、初めて会う人や仲良くなりたい人と人間関係を構築するために、相手に質問したり相手からの質問に答えたり、簡単なやりとりができる。
- 対象：交換留学を希望する日本語学習経験がないまたは少ない協定校の学生
- 期間・時間：2021年2月～2021年7月（週1回、全24回）
- 授業形態：マンツーマンのオンラインレッスンを受ける前に、学習者が「JFにほんごeラーニングみなと」というサイト（<https://minato-jf.jp/>）を使用し、指定された範囲を事前に自習する。オンラインレッスンは、各回30分程度であり、自習した語彙や文型について教師と確認しながら、教師との練習を通して運用できることを目指す。

■ 授業内容：『まるごと 日本のことばと文化入門（A1）』と『まるごと 日本のことばと文化初級（A2）』の内容から、初対面に使用できるやりとりを選定した。各回の内容は、下の表1にまとめた。

表1 各回の授業について

回	テーマ	まるごと 課番号	学習目標 (質問の部分を抜粋)
1	Orientation		
2	Self-introduction	3 (A1)	Ask someone's name. Ask about his/her occupation (social status). Ask which country he/she is from. Ask which language(s) he/she can speak.
3	Self-introduction	4 (A1)	Ask someone about the composition of his/her family. Ask where his/her family live. Ask how old his/her family members are. Ask about their occupations (social status).
4	Likes and dislikes	5 (A1)	Ask someone about foods/beverages he/she likes or dislikes. Ask how frequently he/she eats or drinks them.
5	Likes and dislikes	6 (A1)	Ask someone's favorite dish/food/beverage. Ask where he/she is going to eat. Ask him/her to describe the eating place.
6	Home	7 (A1)	Ask someone what kind of home he/she lives in. Ask someone whom he/she lives with. Ask what he/she has in his/her home and how many. Ask someone to make a comment about his/her home.
7	Room	8 (A1)	Ask what he/she sees in the room or classroom. Ask where they are in the room or classroom.
8	Daily schedule	9 (A1)	Ask someone what time it is. Ask someone what time he/she does something.
9	Weekly schedule	10 (A1)	Ask someone what time his/her class (work) starts and ends. Ask someone how long he/she studies every day. Ask someone how long it takes. Ask someone about the business hours of a store. Ask someone about his/her weekly schedule.
10	Hobbies and interests	11 (A1)	Ask someone what his/her hobby is. Ask someone what he/she can do. Ask how well he/she can do it. Ask how often he/she does it. Ask what he/she does on holidays or days off.
11	Visitor session ①		
12	Events	12 (A1)	Ask someone to come with you to an event. Ask someone's availability.

日本語話者との初対面会話で相互理解を目指す学習者の質問

13	Transportation	13 (A1)	Ask someone about the route to a destination. Ask someone about the transportation to go to a destination. Ask about the appropriate transportation to go to a destination.
14	Towns	14 (A1)	Ask someone to describe a town. Ask what they have in a town.
15	Gifts	15 (A1)	Ask someone what he/she wishes to receive as a gift. Ask about an anniversary. Ask someone when it is, what he/she will do, and whether he/she gives something as a gift on the occasion.
16	Commodity prices	16 (A1)	Ask a price. Ask someone's favorite color(s). Ask the names of what you wear. Ask someone's thought about commodity prices. Ask someone where he/she go shopping.
17	Holidays and days off	17 (A1)	Ask someone what he/she did on the previous weekend or his/her days off. Ask someone how his/her days off were.
18	Memories of past trips	18 (A1)	Ask someone when he/she will have a next long vacation. Ask someone where he/she went for his/her most recent trip. Ask when he took the last trip. Ask what he/she did during the trip. Ask how he/she found the place. Ask where he/she likes to go in the future.
19	Visitor session ②		
20	Self-introduction	1 (A2)	Ask someone where he/she lives. Ask someone about the composition of his/her family. Ask someone about his/her occupation (social status) in detail.
21	Self-introduction	2 (A2)	Ask someone what his/her hobby is. Ask what someone does and when. Ask someone about the hobbies of the members of his/her family.
22	Climate	3 (A2)	Ask about the climate in the region someone lives. Ask someone whether he/she likes or dislikes high or low temperature. Ask about likes and dislikes. Ask reasons for the likes and dislikes.
23	Weather	4 (A2)	Ask how the weather is today. Ask how the weather was. Ask how it looks like outside.
24	Visitor session ③		

表1は、学習者に各回の授業のテーマ、まるごとの課番号との対応、学習目標を示す際に実際に用いた資料を簡略化したものである。各回において場面や話題が設定されており、そこでのやりとり（質問と回答）ができることを目標としているが、表1では質問の部分のみを抜粋した。そして、ビジターセッションについては、第11回、第19回、第24回（表1の灰色で示した部分）において、学習院大学の教職員や日本人学生を招き、1対1で会話する活動を実施した。オンラインでの実施であり、学習者が海外から、協力者が日本国内から参加した。参加者は、学習者2名（L1, L2）と、日本語話者4名（J1, J2, J3, J4）である。「L1+J1（第11回）」、「L2+J1（第11回）」、「L1+J2（第19回）」、「L2+J2（第19回）」、「L1+J4（第24回）」、「L2+J3（第24回）」というように、6回のビジターセッションを実施した。本稿の分析対象の発話は、以上のビジターセッションで行われた会話から抽出したものである。

3.2 分析対象の発話について

表1の学習目標に示したように、「Ask someone's name（お名前は何ですか）」「Ask about his/her occupation（お仕事は何ですか）」「Ask someone's favorite dish/food/beverage（好きな食べ物・飲み物は何ですか）」など、相手の情報を引き出す質問ができることは、授業の目標として掲げられている。また、ビジターセッションの目標、①オンラインレッスンで練習した文型や質問を実践すること、②実際の会話を通して初対面の相手との関係性を築くことについても、学習者及びビジターセッションの協力者に、資料を用いて説明した。

学習目標で提示された質問を練習する際に、教師が質問をするように指示したり、その質問をする状況を導入したりしている。一方、ビジターセッションは、自由会話としたため、練習した質問を唐突に使うと、なぜいまここでその質問をしたのかわからないと理解される場合もある。例えば、次の事例1において、学習者L2は4行目で日本語話者J2に「ん：え： 犬がいますか？」と、犬を飼っているかどうかについて質問をしている。質問の直前には、学校までの移動（手段や所要時間）についてのやりとりが行われ、J2が1行目でオンライン授業のためにいまは移動も必要ではないという理解を示している。その後、L2は顔を上に向けながら、「ん： ん ん」というように何かを考えている仕草を見せ、4行目で質問を開始している。この質問は、唐突に犬の話題を開始し、どうしてそれを知りたいのか、理由が示されていない。それに対してJ2は、2行目で「あ .h いぬ？ お(hhh) hh .h」と、急に犬のことを聞かれて驚いたことを笑いながら示している。その後、L2は6行目で家族の話題を切り出した。

事例 1

- 01 J2: そっか. いまは：いけない オンラインで 授業 (0.4) ですね?
02 (1.0)
03 L2: ん：：((顔を上に向ける)) ん： ん ん
04 L2: ん： え： 犬がいますか?
05 J2: あ .h いぬ? お(hhh) hh .h いません. いぬはいません.
06 L2: え：と ん： (3.0) え： (1.0) 家族 え： J2 さんの家族 は 何歳で
すか?

このように、学習者がビジターセッションで相手の情報を引き出そうと、授業で練習した質問を使う際に、そのことをなぜ知りたいのかを示すことができない場合がある。相互理解を深めるという観点から考えると、相手の情報を引き出す質問は、相手のことを理解し相手との人間関係を構築するためのものであることを示す必要があると言えよう。本稿では、ビジターセッションで学習者が相手の情報を引き出すために用いた質問を取り上げ、相互理解を深めるためにどんな工夫が試みられているのか、事例から探ることとする。

IV. 事例分析

本章では、ビジターセッションの会話から、学習者が相手の情報を引き出す質問を取り上げ、事例分析を通してそういった質問がどのように相互理解を深めるのかを分析する。以下、①掘り下げる質問 ②互恵的な質問 ③やりとりで気づいたことを示す質問という3つのタイプの質問について事例を示していく。

4.1 掘り下げる質問

学習者が相手に質問をし、相手からの返答を得た後で、すぐに次の話題に移る場合がある。前の事例1で言えば、学習者が5行目で犬を飼っていないという答えを得た後で、6行目で家族という新しい話題に移る場合である。それに対して、本節が取り扱う事例は、相手からの返答を踏まえてさらに質問を行う場合である。つまり、質問で分かったことについてさらに詳しく質問を行い、話を掘り下げる行動である。次の事例2は、学習者L2がJ2に「買物が好きかどうか」について質問をしているところである。事例の直前までは、外国語の学習について話し合っていた。

事例2

- 01 L2: え： 買い物 を を します。ん が 好きですか[：]
 02 J2: [はい。
 03 J2: .h あ： はい。あの： かいもの します。好きです。はい。好きです。
 04 L2: ん： どんな買い物 が ん 好きです- [が 一番 好きです
 05 J2: [ん：：
 06 J2: 一番 好き。 .h 一番好きな買い物は： 花 を 買うことです。
 07 L2: 花を： あ はい。[どん-
 08 J2: [うん。 うん。
 09 L2: どんな花を買います。
 10 J2: あ： 今日は： (4.0)
 11 L2: うん。かわいい。
 12 J2: これ 買いました。hh ((花を画面にみせる))
 13 J2: これは： からい ですね。
 14 L2: からい？
 15 J2: チリー。
 16 J2: [はい。 からい。
 17 L2: [あ はいはい。
 18 J2: でも
 19 L2: チリー
 20 J2: チリー。はい。でも きれいでしょ？ hh
 21 L2: えと チリー 食べますか：
 22 J2: あ はい。[たべる こと-
 23 L2: [そう？ からい？
 24 J2: あ からい からいけど。hh
 25 L2: そうです。[そうです。
 26 J2: [食べます。
 27 J2: はい (hh)
 28 J2: .h L2 さんは 買い物が好きですか：

1 行目で学習者 L2 は、相手の J2 に買い物が好きかどうかについて質問している。この質問は、文型として正確なものではないが、買い物をすることが好きかどうかについての質問

としては理解できるものになっている。そのため、2行目でJ2は「はい。」と肯定し、その質問に答えている。そして、学習者が使った文型をそのまま使い、「買い物が好き」であることを明確に示している（3行目）。このように、日本語話者が学習者の質問の意図をくみ取って引き出される情報を与えることで、質問のやりとりが行われている。

ここでは学習者L2の4行目と9行目の発話に注目する。4行目の発話は、学習者が「ん：どんな買い物が ん 好きです- が 一番 好きです」と、買い物が好きであるという相手の返答を踏まえて、「どんな買い物…」と買い物の内容について詳しく聞くとともに、「一番好き」というように、相手のことを理解するために、様々な情報がある中から重要なものに限定し、情報を引き出そうとしている。そして、相手が花を買うことが好きであるという返答（6行目）を踏まえて、9行目で「どんな花を買います。」というように、さらに詳しい情報を引き出している。このように、相手のことを掘り下げる質問を通して、相手のことを知りたいという姿勢を示すことができているわけである。

さて、相手のことを掘り下げる質問は、相互理解をどのように深めることができるのか。質問のやりとりの続きを見ていく。9行目のL2の質問に対して、L2は10行目と12行目でその日に買った花を見せている。こうして持ち物を使って自分の情報を開示する行動は、掘り下げる質問によってきっかけが作られていると言える。自己開示は、相互理解を深めるために非常に重要な行動とされる一方で、何らかのきっかけを必要とするものでもある。相手のことを掘り下げる質問は、相手のことに興味を示し続け、相手が自己開示しやすい環境を作ることができるのではないかと考えられる。

4.2 互恵的な質問

4.1では、学習者が相手に質問をした後で、相手の答えを踏まえて相手の情報について詳しく聞くという「掘り下げる質問」を確認した。ここでは、学習者が自身の話題や情報について話したことをきっかけに、同じ話題や情報について相手の情報を引き出すような質問に注目する。この質問は、両方の話者から情報が提供されることから、便宜上、「互恵的」な質問と名付ける。以下、2つの事例を見ていく。

次の事例3は、好きな料理について話しているところである。事例の直前に学習者L1はイタリア料理が好きだと話した。1行目でJ2がその情報を詳しく引き出そうとし、L1は2行目と3行目で好きなイタリア料理名を述べ、J2の質問に答えている。

事例3

01 J2: あ： イタリアの： 料理 何が好きですか？

- 02 L1: お： 私の一番好きな食べ物 は ピッツァ え： と： え とか：
03 スパゲッティとか： ん () りょうりとか(h)
04 J2: うん. うん.
05 L1: はい とても 好き：[です.
06 J2: [あ はい.
07 L1: .h ん J2 先生 イタリアの： ん： 食べ物 が 好きですか？
08 J2: [あ はい.
09 L1: [イタリア料理.
10 J2: 私も 大好き： です.
11 L1: [ん：
12 J2: ピッツァも好きですし 今日 えと いま あの お昼ご飯 を さっき
13 食べました。お昼も： スパゲッティ を 食べました. はい.
14 L1: お はい.
15 J2: 好きです.
16 L1: はい. スパゲッティは とても かんた- 簡単で おいしい の 料理
17 J2: はい.
18 L1: です. hh

7行目でL1は「.h ん J2 先生 イタリアの： ん： 食べ物 が 好きですか？」という質問を開始している。この質問は、これまでL1自身が話したイタリア料理の話題をきっかけに、相手のJ2の情報を引き出している。そして、自分が好きだと言ったイタリア料理は、相手も好きであるかどうかという情報を得ることができる。つまり、相手との共通点を見つけることを目指す質問になっている。実際には、10行目でJ2は「私も 大好き： です。」というように、「も」という助詞を用いて、相手との共通点として回答を開始している。この後、J2が12行目と13行目でその日の昼ご飯でもスパゲッティを食べたということを述べ「大好き」という根拠を示した後で、L1は16行目でスパゲッティに対する感想を述べ、共感を示そうとしている。

次の事例4は、J3がL2に「休日」について質問を開始しているところである。事例の直前に「ほかの国に行ったことがありますか」という質問を行っていたが、学習者が質問の意味を理解できず、1行目で休日の話題に切り替えた。「休日」という言葉について理解の問題が生じていたが、J3が4行目で「休みの日」という簡単な言葉を用いてその問題を解決し、L2が5行目で質問への答えを開始している。

事例 4

- 01 J3: じゃあ 休日は 何をしますか？
02 (1.0)
03 L2: きゅうしつ きゅうしつ
04 J3: はい. 休みの日.
05 L2: 休みの日 あ はい. 休みの日 ん ちょっと 何もしません？
06 J3: hh[h
07 L2: [ちょっと ちょっと
08 J3: うん： 忙しいですね.
09 L2: はいはいはい. 忙しいですね. え： ちょっと ん ん
10 ポケモン え： を ポケモン え： 映画 を：： みます.
11 ちょっと ん： わたし と： いぬ を 散歩 してます. 散歩します.
12 (1.0)
13 L2: [いぬ が あります.
14 J3: [()
15 J3: いぬ 飼ってるんですね：
16 L2: はいはいはいはい.
17 L2: [え：
18 J3: [かわいいですか？
19 L2: かわいい かわいい ルナ ルナちゃん ルナちゃん
20 J3: hh
21 L2: え：と あの： I will
22 J3: い(h)いんですか
23 (15.0)
24 L2: ルナちゃん [おはようございます ((犬を画面に見せる))
25 J3: [hhh
26 J3: .hh おはようございま(h)す. hh
27 J3: かわいい(hh)
28 L2: [(どうですか)
29 J3: [真っ白ですね：
30 L2: はい.
31 J3: すご[い.

- 32 L2: [え () え: ルナさんは: ご- 5歳です.
 33 J3: へ: :
 34 J3: おとなしいですね:
 35 L2: おとなしい?
 36 J3: はい.
 37 L2: そうですね?
 38 L2: えと え: (0.4) いぬ ん: と- いぬ ん ねこ が ありますか?
 39 J3: .h いや, 何もいません. ねこも いぬも いません.
 40 L2: > そうですね. [そうですね. <
 41 J3: [はい.

5行目で何もしないという答えを開始したが, 10行目と11行目で「ポケモンの映画を見る」「犬と散歩する」と実質的な情報を提供している。そして, 13行目で「いぬ が あります。」というように, 犬を飼っている事実を述べている。これをきっかけに, 19行目で犬の名前を紹介したり, 24行目で画面越しに犬を見せたりしていた。それに対しJ3が「かわいい(hh)(27行目)」「真っ白ですね:(29行目)」「おとなしいですね:(34行目)」と, 犬に対して興味を示すところから, 犬の話題で話が盛り上がっていることが分かる。ここで, 38行目のL2の「えと え: (0.4) いぬ ん: と- いぬ ん ねこ が ありますか?」という質問に注目する。この質問は, 相手が犬か猫を飼っているかについて情報を引き出そうとしている。直前に話されていたペットの話題について, 相手もペットを飼っている可能性を探ることから, 事例3で確認したように, 相手との共通点を見つけようとする行動になっていると言えよう。

ペットを飼っているかどうかを聞く質問は, 事例1にも観察されているが, 事例1の場合はなぜそのことを知りたいのか示すことができなかった。それに対して, この事例で観察された質問は, 自分側の情報を提供した話題に関して, 相手側の情報を引き出すことから, なぜそのことを知りたいのかしっかり理由が示されていると言えよう。実際にも, 相手は犬も猫も飼っていないと回答し, 質問に対して驚きの反応を見せなかった。このように, 自分のことを開示した後で, その話題について相手の情報を引き出すことで, 共通点を見つける形で相互理解を深めようとしているのである。

4.3 やりとりで気づいたことを示す質問

4.1と4.2では「掘り下げる質問」と「互恵的な質問」について, 学習者の質問がどのよう

に相互理解を深めることが可能なのかを、事例を通して見てきた。4.3において、やりとりの中で相手の何かに気付き、その気付きが合っているか相手に確認を求めるような行動に焦点を当てる。ここで言う「相手の何かに気付く」というのは、相手の発言や行動から相手の個性や特徴に気付いたり、相手と自分との共通点を見つけたりする類のものである。2つの事例を見ていこう。

次の事例5は、日本語を勉強したきっかけについてJ4が質問した後のやりとりである。日本語の歌や音が好きなのだというL1の答えを受け、J4はコーラス部に参加していることを話し、L1と歌のことについてもっと話したいと述べていた。1行目でJ4が日本語の歌を歌ったことがあるかどうか質問をし、その質問に対してL1は5行目と6行目で人前で歌ったことがないことを伝えている。

事例5

- 01 J4: 日本の： 語の： 歌 を： うたったことがありますか？
 02 (1.2)
 03 L1: え： 日本語？ 日本語で？ [うたったことが
 04 J4: [日本語で うん.
 05 L1: .h あん： たぶん 私の部屋に. hhh で(h)も (h) え： 人の前に
 06 え： うたうことが ありません.
 07 J4: あ： そうなんですね.
 08 L1: ありません.
 09 J4: 日本語の： 歌？
 10 (0.2)
 11 J4: は： ん： (0.2) 歌詞 うたの： 歌詞： が： 難しいけど：
 12 とても 面白いので： ぜひ 日本語の歌を練習して みてください.
 13 (1.0)
 14 L1: ん： はい.
 15 L1: え： J4さんは カラオケが： え： 好きですか？
 16 J4: 大好き.
 17 J4: [大好きです. hh
 18 L1: [お：

そして、9行目、11行目と12行目においてJ4は日本語の歌詞は面白いという理由で、日

本語の歌の練習を勧めている。14行目でL1は「ん： はい.」とその提案を受け入れている。その後、15行目でL1は「え： J4さんは カラオケが： え： 好きですか?」という質問を開始している。この質問は、直前のやりとりで相手が日本語を歌った経験について質問したり、日本語の歌の練習を提案したりしていることから、「相手はカラオケが好きかもしれない」と推測をし、その推測は合っているかどうか確認を求めているものとして理解される。このように、相手の発話や行動をよく観察し、相手の特徴や個性に気付いたことを示すことで、相手のことを理解しようとする姿勢を示し、相手の理解をさらに深めることを可能にしているのである。

次の事例6は、会話の冒頭で簡単な自己紹介を交わした後で、J4は1行目でL1の年齢を質問している。その質問に対してL1は2行目で答えている。

事例6

- 01 J4: L1さんは： いま 何歳ですか？
 02 L1: え： いま 私は： え： に- にじゅういっさい です.
 03 J4: あ 私も にじゅういっさい です.
 04 L1: ↑お そうですか？ hh
 05 J4: 同い年. 同じ 年齢
 06 L1: お- おなじ-
 07 J4: はい.
 08 L1: J4さんは： いま え： たぶん え： 3年生？ です- [ですか？
 09 J4: [あ
 10 J4: 4年生.
 11 L1: お： [4年生？
 12 J4: [大学4年生です.
 13 L1: お そうですか. わたしは 3年生です.

その答えを聞いて、J4は3行目と5行目で、年が同じであることを述べ、年齢という共通点を見つけたことを示している。L1は6行目で「お- おなじ-」と、共通点になっていることに同意を示した後、8行目で「J4さんは： いま え： たぶん え： 3年生？ です-ですか?」という質問を開始している。直前の自己紹介のやりとりでは、お互いは「大学生」であることを確認していた。このことを踏まえて、この質問は、「たぶん～」という言葉を用いることで、「学年も同じかもしれない」という推測を行い、その推測は合っているか確認を

求める行動として理解することができる。このように、やりとりの中から自分と相手との共通点を見つける努力を表示する形で、相手の情報について話を掘り下げることが可能にしている。言い換えれば、相手の情報を掘り下げるとともに、相手との共通点を見つけるという話者の意図が明確に示されている。

V. 考察

本稿では、ビジターセッションで日本語話者と学習者が行ったやりとりから、相互理解を深めながらよい人間関係を築くために相手側の情報を引き出す学習者の質問を取り上げて事例を分析した。ビジターセッションの実施背景として、短期間の授業で身に着けた日本語能力でも、留学先の教職員や学生と交流を行い、人間関係を築くきっかけや経験を獲得することで、留学への不安を軽減されることが挙げられる。各事例で示された学習者の質問は、「イタリアの料理が好きですか」「どんな買い物が一番好きですか」「犬と猫はありますか」等、授業の中で習った文型や語彙を取り入れたものである。そして、事例の分析を通して明らかとなったように、これらの質問は、なぜそのことを知りたいのか示さなければならないという課題を抱える一方で、①話を掘り下げる質問 ②互恵的な質問 ③やりとりの中で気づいたことを示す質問など、様々な形でその課題を乗り越えている。事例分析で確認したように、これらの質問は、相手はどんな人なのかを理解したり、相手との共通点を見つけたりするために、情報を引き出しているのだということを示すことが可能となっている。このように、ビジターセッションを通して、学習者は授業で習った質問や知識を取り入れながら、相手への理解を深めたり、自分との共通点を見つけたりすることで、よい人間関係を築く経験を積み重ねているのではないかと考えられる。

以上の分析結果を踏まえ、本プログラムにおけるビジターセッションの実施について、相互理解を目指す意識を促進するための支援体制を考えたい。まず、ビジターセッションの前にできることについてである。2021年度の実施においては、相互理解を深めるという目標を、媒介語の英語で口頭でのみ説明していた。今後は、ビジターセッションの準備として、授業で習った相手の情報を引き出すために用いられる質問を学習者とともに復習したり練習したりする活動が必要であると考えられる。さらに、具体的な状況を提示し相互理解を深めるという目標に意識を向ける必要もあると考えられる。例えば、相手に質問し答えを得た後で沈黙が生じたりする状況や、相手の質問に答えた後で沈黙が生じたりする状況を提示し、そういった状況を打開するために、どうしたらよいか解決策を学習者とともに考えたり、教師側から「話を掘り下げる質問」や「互恵的な質問」を紹介したりすることも可能である。そして、ビジターセッションに協力する日本語話者にもこうした情報を提供することも考え

られる。日本語能力が十分ではない話者と豊かなやりとりを行うためには協力者側の準備や努力が必要だと思われる。相互理解を深める方法に関する知見は、その準備を促す材料として活用できる。

ビジターセッションを実施した後でどんなことができるのだろうか。2021年度は、ビジターセッションの会話を録画し、録画会話から1分程度のやりとりを2～3箇所切り取り、切り取った動画を教師のコメントとともに学習者に提示していたが、会話動画の選定基準は、日本語の正確性に気付かせるものが多かった。今後は、会話動画を選定する際に、相互理解を深めることができそうな場面で、どんな方法があるのか気付かせるという観点を取り入れていく必要があると考えられる。例えば、本稿の「やりとりの中で気づいたことを示す質問」の事例では、相手の個性や特徴が分かる情報や、相手と学習者が共通して持っている情報が含まれている。このことから、相互理解を深める方法について考える際によい材料になっていることが言えよう。そういった材料を用いて学習者とともに振り返ったり、教師が情報提供をしたりする活動を取り入れていく必要がある。

以上のように、学習者がビジターセッションにおいて相互理解を深めるために自発的に試みた工夫について記述し、学習者の工夫をヒントに、相互理解への意識を促す活動を実施したり振り返るための材料を提供したりするなど、本プログラムのビジターセッションに関する支援体制の方向性を示した。本プログラムだけではなく、相互理解を目指すためにビジターセッションを実施する教育機関にも知見を提供できたら幸いである。

参考文献

- 大平未央子 (2000)「日本語母語話者と非母語話者のインターアクションにおける相互理解の構築——関連性理論の観点から——」『日本語教育』105 pp. 71-80
- 梶原綾乃 (2003)「留学生と日本人学生との交流促進を目的としたコミュニケーション教育の実践」『日本語教育』117 pp. 93-102
- 田崎三千代・古川嘉子 (2000)「ビジターセッションにおけるロールプレイの効果——1998年度海外日本語教師長期研修『聴解口頭表現』における実践」『日本語国際センター紀要』10 pp. 33-49 国際交流基金日本語国際センター
- 中井陽子 (2003a)「談話能力の向上を目指した会話授業——準備レッスン・ビジターセッション・反省会を取り入れた授業を例に」『日本語教育方法研究会誌』10 pp. 20-21
- 中井陽子 (2003b)「話題開始部で用いられる質問表現——日本語母語話者同士及び母語話者／非母語話者による会話をもとに」『早稲田大学日本語教育研究』2 pp. 37-54
- 中井陽子・大場美和子・土井真美 (2004)「談話レベルでの会話教育における指導項目の提案——談話・会話分析的アプローチの観点から見た談話技能の項目——」『世界の日本語教育』14 pp. 75-91 国際交流基金日本語国際センター
- ネウストブニー J.V. (1982)『外国人とのコミュニケーション』岩波書店
- 村岡貴子 (2001)「大阪大学短期留学特別プログラム OUSSEP 上級日本語クラスにけるビジターセッション 2000 年春学期の実践報告」『大阪大学留学生センター研究論集多文化社会と留学生交流』

文字化の記号

[オーバーラップの開始位置
[]	オーバーラップの終わり
=	2つの発話が途切れなく密着していること
(m.n)	その秒数の間合いがその位置にあること
(.)	0.2秒以下の短い間合い
°°	音が小さいこと
()	聞き取り不可能な部分
(言葉)	聞き取りが確定できない部分
発話::	直前の音が延ばされていること
h	呼気音・笑い
.h	吸気音
<u>発話</u>	下線部分に強勢がおかれていること
.	下降調抑揚
,	継続を示す抑揚
?	上昇調抑揚
> <	発話のスピードが目立って速くなる部分
< >	発話のスピードが目立って遅くなる部分
↑	音調の極端な上がり
(())	非言語的行動

(ト チョウシュン 元学習院大学国際センター准教授)

(アン サンヒ 元学習院大学国際センター外部コーディネーター兼非常勤講師)

Case Analysis of Learners' Questions for Mutual Understanding in Conversations with Japanese Speakers in Their First Meetings: About the visitor session for the learners to apply what they learned in the online class

Changjiun Du and Sanghee Ahn

Abstract

The International Centre of Gakushuin University has been implementing an online Japanese language program for students from partner universities who wish to participate in the exchange program but have failed to meet the prescribed Japanese language proficiency standards (equivalent to JLPT N4 level) to acquire basic Japanese language skills in the six months before their arrival in Japan. The program consists of self-study using an e-learning website, one-on-one online lessons between teacher and learner, and a visitor session in which students practice what they have learned in the online lessons. In the visitor session, learners engage in a one-on-one conversation with a Japanese speaker they have never met before. In this paper, we take up and describe questions the learners asked for mutual understanding in the conversations in the visitor session conducted in FY2021. We analyze (1) in-depth questions, (2) reciprocal questions, and (3) questions that indicate what they noticed in the immediately preceding conversation or exchange. We then consider what can be done before and after the visitor session to promote learners' awareness of aiming for mutual understanding.